

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ 子どもの安全の考え方、計画策定の必要性として子どもが安心して過ごせる生活の場として環境を整え、安全面に配慮しながら自ら危険を回避できる能力を身に付けられるようにしていきたいです。室内外の安全点検や緊急時に向けた安全対策、事故等発生時のマニュアル作成を支援員間で共有していく必要があると思いました。防災や防犯に関する訓練も子どもたちや保護者、関係機関の協力を得て、定期的に行う必要があると再認識しました。
- ◆ 放課後児童支援員は、多種・異業種出身の職員から成り立つ場合が多く、それぞれ得意・不得意の分野があります。それらの特性を生かし、安全管理に努めるべきことを学びました。鳥のように広く全体を見て、虫のように足下をしっかりと見て、魚のように流れにのりながらもタイミングをのがさず動き、子どもたちを日常の中にひそむ危険から守り、安全で安心できる環境づくりに励みたいと思いました。
- ◆ 毎日何気なく子どもたちと過ごしていて、何事もなかった日を当たり前とと思っていましたが、そんな日常に起こるちょっとした「ヒヤリ」が保護者への報告を必要としたり、損害賠償が生じるケースになるということを知りました。重大事故になる前の不安要素をいかに減らすことができるか、支援員同士や保護者、学校等とコミュニケーションをとりながら防いでいきたいです。
- ◆ 「ヒヤリハット」だけでなく、「ニヤリホット」も職員間で話せるような職場にしていきたいと思いました。1人の目だけではなく協力して、事前に防げる部分を点検することで、気付けることがあるのではないかと思います。職場で一体となって、非常災害対策マニュアルを新たな目で見直していきたいと思います。
- ◆ 子どもたちの生活の中では、思いもよらない事故やケガが生じることが多く、安全対策や子どもたちへの安全教育を行う必要性を切に感じました。危険な場面や施設で気付いたことなどを職員間で情報共有して計画的な訓練等を実施し、子どもたちの安全教育を育てることができます。日常の遊びや生活の中での危険な場面をとらえ、臨機応変に指導し、自らの安全を守る意識を育てていきたいです。